

2021年度第2回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議 議事要旨

日 時：2021年10月30日（土）10:00～12:00

会 場：オンライン（zoom ウェビナー）

参加者：24名

内 容：

事務局より農地と生物多様性の恵み（生態系サービス）の関わりについて簡単に説明を行い開会となった。

●報告：みんなで作る みんなの のうえん（一般社団法人グッドラック代表理事 金田康孝）

資料の共有及び現地からの中継を交えて次のとおり報告があった。

「みんなのうえん」は北加賀谷にある農園で、「みんなで作る みんなの のうえん」をテーマに掲げ、様々な年代の方々が一緒に活動している。まちづくり事業の一環として、畑をつくるところから活動をはじめ、野菜作りにとどまらず、農や食に関する活動を展開している。地域コミュニティとしての役割だけでなく、地域のみどりや生物多様性を豊かにし、都市での暮らしの質の向上にもつながっていると考えている。

生物多様性に関する取組は大きく分けて2つあり、環境学習と土づくりである。農園では、子どもたちを対象に野草図鑑づくりというプログラムを行っている。講師とともに子どもたちが農地に生えている植物を集め、白紙の絵本に植物を貼り付け、図鑑で調べた名前を書き込むことで、子どもたち一人ひとりが自分だけの図鑑を作るというプログラムである。土づくりに関しては、小さいながらも農地の中で循環をつくることを目的として、抜いた草や野菜の残渣を利用して、コンポストで堆肥化し、利用している。

（質疑応答、参加者意見等）

質問：農園の運営やイベントの開催について、地域の方々にはどのような声かけを行っているのか。

回答：農園を作る前には、1年程度かけてワークショップ等を開き、地域の方々と関係性を構築し、農園の方向性をまちと一緒に検討してきた。活動メンバーが固定化しがちなので、地域の方々を招いたり、開いたコミュニティとなるように心がけている。

質問：近隣住民からはどのような反応があるか。

回答：ネガティブなりアクションはない。昔の田舎を思い出して懐かしいという声等が聞かれる。

意見：雑草を残し、それも含めて子どもたちへの環境学習に使う点は、生物多様性保全にもつながる取組だと思った。

●報告：食農教育応援事業（JA大阪市 本店営農生活部長 北野善史、組織活性対策課長 益田健次）

JA大阪市では、食と農の取組を行っている。平成元年より実施している稲の生育を観察するセットの配布や、平成14年から実施している市内全小学校への「農業とわたしたちの暮らし」

（冊子）の無償配布、平成17年からは農家組合員から講師を引き継ぐ形で実施している田植え・稲刈りの指導の取組等がある。平成19年からは「親子で農業体験」というプログラムをJA大阪市営農促進センター（平野区）行っている。コロナ禍前には、7月に「田植・寄せ植え・じゃがいも掘り」、11月に「稲刈り・田辺大根収穫体験・サツマイモ掘り」を実施している。また、市内小

学校では、小学校5年生を対象に田植え・稲刈りの出張授業も行っており、農業への関心を深めてもらっている。

(質疑応答)

質問：JA 大阪市の取組について、都心部の子どもたちがこれだけの農業体験をさせていただけることはすばらしいと思った。子どもたちの反応を教えてください。

回答：市内に田んぼがあることを知らないし、田んぼに入った経験もない子どもたちばかり。田んぼの中で転んだりしながらも体験を楽しんでいる。

●報告：昆虫畑（大阪府立大学 平井規央教授）

昆虫畑は、大阪府立大学中百舌鳥キャンパス内（堺市）に設けた、昆虫研究室が管理・研究している実験圃場。役割は、農作物の害虫のモニタリング・飼育昆虫のエサ栽培・動物昆虫管理学などの授業での使用・ビオトープとしての機能等が挙げられる。管理においては、研究の趣旨に合わせ、殺虫剤を使わない・害虫の天敵を大切に作る・害虫のトレンドを知るために多くの種類の作物を栽培することになっている。

畑、水田における害虫（種名や被害、対処法について写真を用いて具体例を紹介）について、これら害虫の天敵である昆虫やクモ、カエルなどの動物によりコントロールできる。

害虫対策として、農薬・殺虫剤だけに頼らず、様々な防除手段で総合的に管理する考え方である総合的有害生物管理（IPM：Integrated Pest Management）が農業の現場では広く知られている。さらに、これを発展させ、生物多様性を知って農業生態系を適切に管理しようという考え方である総合的生物多様性管理（IBM：Integrated Biodiversity Management）がある。希少種を守る手法の逆を行えば害虫を減らすことができるというように、害虫を防除することも希少種を守ることも同じ昆虫の管理として共通の技術でできることがある。家庭菜園規模であれば、その手法を用い適切な管理をすれば、生物多様性を高め好循環を生み出せる。中百舌鳥キャンパスでは、このような管理を 15 年ほど続けているが、みられる昆虫の種類が増えており、近隣では見られないがキャンパス内では見られる種もたくさんあるので、生物多様性に貢献していると考えている。

(質疑応答)

質問：害虫や天敵も含めた「生物多様性」という概念は、一般の方にはなかなか理解できないと思う。どのような説明であれば一般の方にも納得いただけるのでしょうか。

回答：生物はみんなつながりをもって生きていることを踏まえて説明することが大事だと考える。

●意見交換会 テーマ「サステナブルなまちなか「農」への期待」

(一社)グッドラック 金田：みんなのうえんでは生物多様性について調査をしたことはないが、農園がどんな影響を与えているのかみてみると、渡り鳥の休憩地や餌場になっており、周辺の大きな公園をつなぐ中継地・通過地となるポテンシャルがありそうだと考えている。みんなのうえんは住之江区にあるが、平野区や住之江区などもう少し広い範囲で、生物多様性を評価する方法を教えてください。

大阪府立大 平井：生態系ネットワークという言葉があるが、鳥も昆虫もやってきているので、その一つとして機能していると思う。昆虫は名前を調べるのも難しいが、野草図鑑を作る取組で生物多様性と十分関わっていると思う。できるなら虫に詳しい人をお願いしてリストを作ってもらい、経年変化

を見ると、毎年増えてくることが分かると思う。最初の状態からどのように増えていくのかを調べると良い。評価については、最寄りの大きな公園の何割ぐらいの動植物がいるか比較してみると良い。すべてを調べることは難しいので、例えばチョウやトンボ、バッタなどを指標として比べてみると良い。

J A大阪市 益田：外来種によるお米の損失のことなるが、トビイロウンカは大陸から飛来して来るため、いまは農薬散布するしか防除方法がないが、駆除の方法として、それを捕食するものがあるのかどうか教えていただきたい。

大阪府立大 平井：外来種の定義は人為的に持ち込まれたものをいうので、自分で飛んできているトビイロウンカは外来種とは言わない。梅雨前線に向かって暖かい湿った空気が吹き込むが、去年は梅雨が長く続いたことで、トビイロウンカだけでなくコブノメイガやミナミアオカメムシといった南方系害虫が多く発生した。トビイロウンカの壺枯れは最近では多発がなく 20 年ぶりくらいではないかと思う。天敵というのは難しいが、現状の慣行栽培を行う田んぼでは天敵であるクモや小昆虫等が少ない状態になっているので、それらが棲めるようにしていただければ少しはましになるかもしれないが、昨年のような状況では防除は難しかったのではないかと思う。注意するとすれば、長梅雨の後は必ず南方系害虫が発生するとみて早めに防除することだと考える。

J A大阪市 益田：今日教えていただいた生物多様性や地球環境といった観点を視野に入れて農業に関する情報を伝えていくという役割も果たしていきたい。

事務局：生物多様性を一般の方などに分かりやすく伝えていくことが重要になると思う。最後になるが、一般の方々の農の取組への参加について、一言ずついただきたい。

J A大阪市 北野：J A大阪市では 49 農園、約 1800 区画を管理しており、地域の方々に携わっていただいている。生産緑地法の改正により、農業ができなくなった農家さんの農地を農園にするなど、農園は少しずつ増えており、東淀川でも新しく 40 区画ほど開設するので、取り組んでいただきたい。

(一社) グッドラック 金田：みんなのうえんの取組に参加してもらったり、大阪市内の農家さんの直売へ行ったりすることも取組のひとつ。大阪府域まで範囲を広げると農業が体験できる場所はいっぱいあるので、週末ふらっと遊びに行くなど、参加してもらったらいいと思う。

大阪府立大 平井：J Aさんのお話で農園が増えているということが意外だった。最近はコロナ禍で、そうした取組に参加したいという方は増えているというニュースも目にする。大阪市の人口を考えると、場所を提供すれば、やってみたいという人がいるのではないかと思うので、みんなのうえんさん、J Aさんの取組を頑張っていただきたいと期待している。生物多様性は農業と密接にかかわっており、農業をする人が生物多様性を意識しなくてもきっと向上するはずであり、配慮すればもっと向上すると思っている。

●講評（大阪府立大学 平井規央教授）

大阪市の農地が 81ha あるというのは、意外に多いと思った。取組の報告では、みんなのうえんでのユニークな取組や、渡り鳥の中継地のように生態系ネットワークとして役立っていることが紹介された。J A大阪市では農業体験や小学校での出張授業の取組を実施しておられ、これらの取組にあたっては、新人研修も行うとのことなので、研修の内容に生物多様性についても盛り込んでいただけたらと思う。大阪府立大学での昆虫畑の取組の紹介では、生物多様性を知って農業生態系を適切に管理することで、家庭菜園レベルなら害虫を防げることを紹介した。本会議の報告と意見交換を通じて、農が生物多様性にとって重要であるといえるだろう。